

関係団体と連携し活動

旭川小規模多機能連絡会 市内全事業所が参加 発足1年

旭川地域小規模多機能型居宅介護事業所連絡会は、十二月で発足

築、認知症になっても住み続けられるまちづくりを目指している。

してから一年を迎えようとしている。市内全小規模多機能事業所が会員となり、研修会には市外事業所、小規模多機能以外の事業所・施設も参加。関係団体とも連携しながら、地域包括ケアシステム構

同連絡会は小規模多機能の啓発、事業所間連携、質向上などを目的に二十三年十二月発足。市内全十七事業所(休止一事業所除く)が参加。機関誌やホームページ、メーリングリストを活用しながら情

報発信している。

これまで介護報酬改定の見直し・介護報酬改定の研修会、小規模多機能事業所見学会などを実施。市担当者を招き、保険者が求める・描く小規模多機能をテーマに講演も企画した。十二月には「脱水・水分補給」の研修会を計画。ケアマネ・計画作成担当者の研修、業務管理に関する経営者・管理者向け研修も視野に入れる。

板橋雅之会長(えみな福祉企画専務)は「地

域包括ケアシステムを實現するには利用者や市民、事業者、行政の協力が必要」とし、連絡会として小規模多機能を拡充する方策も検討していく考えだ。監査は認知症グループホーム、居宅介護支援事業所各団体、相談役は全国連絡会理事の安倍信一社会福祉法人美瑛慈光会理事長が務めている。